

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1173700236		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	行田ケアセンターそよ風		
所在地	埼玉県行田市天満8-29		
自己評価作成日	平成24年3月6日	評価結果市町村受理日	平成26年6月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成24年3月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様それぞれの個性や特徴を把握し、一人ひとりの思いに沿った支援を行っている。共同生活の場においてその人らしさを表現できるような、明るい雰囲気づくりに努めている。職員は誠意のある対応をおこなうことで、ご利用者・ご家族双方から信頼される関係を構築できるように心がけている。日常生活においては、気候・天候の良い日には施設前の公園への散歩や、近くのスーパーや商店へ買い物へ出かけたりして、気分転換を図っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所の運営に運営推進会議が活用されている。事業所のイベントに合わせて開催することで、参加者の幅を広げ、地域住民にも参加いただける環境を作り、災害対策など、利用者身近なテーマが取り上げられている。  
また、職員間のコミュニケーションが良く、利用者のケアについて、お互いの考えを述べあい、それと同時に利用者とも1対1で接する時間を多く取り、細かなことへの気づきにも配慮されている。  
平成22年度の目標達成計画、利用者、家族等意見の反映については、家族会を開催し、利用者の食事の試食会を行い、サービスの質の向上に反映させるなど、目標が達成されている。更に、災害対策についても、近隣住民との合同避難訓練の実施の呼びかけを行い、自治会との防災協力体制の話し合いの場が持たれるようになるなど、目標達成に向けた取り組みが行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム理念、基本方針、基本理念、品質方針を掲示し、毎日朝礼の際に復唱し、全職員周知徹底している。	独自の理念を基に、職員には、利用者が主役という意識が根付いており、常に理念の共有が図られ、理念に立ち返りながら、日々の支援が行われている。利用者から「楽しいね」と言われ、心穏やかに過ごせるよう配慮がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加を大切にし、自治会祭、近隣学校での運動会、作品展などの行事の参加。地域での新年会に招かれ、交流を図る機会を頂いている。	事業所の「10周年記念祭り」を開催し、地域住民や自治会役員、市担当者などに参加をいただき、地域とのつきあいの拡大が図られている。また、小学生の訪問を受け入れ、手作りのお土産をいただいたり、一緒に昔の遊びをするなどの交流にも努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では日々の支援方法や、実践状況等内部公開している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で挙げられた、地域の方からの指摘や要望、意見を聞き情報共有することで、サービスの向上につなげている。	事業所行事に合わせて開催するなどの工夫を図り、市担当者や自治会代表、民生委員だけでなく、地域の住民にも参加をいただいている。地域住民の要望に応じて、災害発生時には、事業所内に住民の避難受入れをすることなどの話し合いもなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設事故等の報告・相談など、連携を密にとるように心がけている。	家族からの相談、要望、苦情などについて、市担当者と連携をとりながら対応がなされている。日常的に情報交換、連携がなされており、運営推進会議の議事録を持参するなど、交流が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けての講習を受け、事業所内での勉強会により周知徹底し日々の業務に取り込んでいる。	経験豊富な職員の慣れによる言動や、新人が拘束について知識がない為に起こしてしまうことなどを、お互いに指摘し合い、拘束に頼らないケアが実践されている。拘束について、学ぶ機会も設け、知識の共有にも努められている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、講習会を実施。全職員情報共有し、毎日の生活を支援する際、細心の注意をはらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度に関する講習会に参加し、メリット、デメリットをよく理解したうえで支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定があった際には、ご利用者様、ご家族様と話し合いを行い、意見等も踏まえ、理解・同意していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期開催している家族会議ではご家族様の意見、ニーズを聞く機会があり、利用者様には日々要望を頂いている。また、意見ボックス設置。	利用者とは、日常生活の中で、直接聴き取ることに努め、家族からは、運営推進会議や家族会などで意見や要望を聴く機会が作られている。防災についての意見交換や、食事の試食会を実施するなどして、運営にも反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議、全体会議では運営に関する説明を行い、職員からの意見、提案を出し、検討している。	会議以外でも、休憩時間などを利用して、話し合いをするなど、職員間の意見が出しやすい環境づくりがなされている。管理者は職員の意見に対して「どうしたらいい」と自主的、具体的な対応を求めるなどして、サービスの向上に努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、日々の職員の勤務態度、状況を把握し、効率よく業務が出来るよう促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各人が知識・技術向上、ステップアップ出来るよう、研修の機会を確保、環境づくりをしている。人材育成、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議にて、同業者と交流する機会があり、情報共有、意見いただき、また、グループホーム意見交換会を開催し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の基本情報を全職員で共有し、毎日の生活の中で、本人様の気持ちやニーズ等、傾聴し、穏やかに安心できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と常に連携を図り、早急な報告、連絡を行い、話し合う場を多く持つことで密な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様と話し合いを持つ際、新たな相談やニーズが出た場合は、的確な支援サービスが出来るよう、準備を整えておく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様、一人ひとりのニーズと意思を尊重し、その人らしい、生活を支援するとともに、穏やかに共同生活を送れるよう、ケアしていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との信頼関係を築き、来所しやすい環境づくりに努め、面会の機会を多く持つていただく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	内部の情報公開や、気軽に立ち寄れる施設作りに努めることで、なじみの人との交流も大切にさせていただく。	馴染みの友人、知人の訪問があり、一緒に外食に出かけるなど、これまでのつきあいが続けられるよう取り組まれている。また、家族の協力により、行きつけの美容室で髪を染めてくる利用者もおり、馴染みの関係継続に配慮がされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの身心状態、性格、生活歴を考慮し、利用者様同士が仲良く、穏やかに日常生活を送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約が終了された方も行事に招待したり、気軽に立ち寄ってもらったりできるように心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションから、思いや、ニーズを把握し、言葉や表情の真意を感じるよう意識している。家族様と相談、支援につなげている。	なるべく1対1で、わかりやすい言葉がけにより、思いや意向を把握するよう努められている。また、家族以外に昔からの友人や兄弟などから、子供の頃の様子を聴きとるなどして得た情報も、ケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用する際、情報収集、生活環境の把握に努め、また随時、家族様から具体的な情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに行動や小さな動作を感じ、本人様の全体像を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族様には、日頃の係り合いの中で思いや意見を聞き、反映させるよう努めている。職員間での意見交換、カンファレンス実施。	介護計画の内容が介護記録に反映できる仕組みが築かれている。それにより、計画作成担当者が実践状況の把握ができ、モニタリングの材料にもなり、計画の見直しにも反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や気付いたことは、個々の記録に記載。また、職員間の情報共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様、本人様の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員、自治会、消防署等と意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、家族様の希望により、協力病院の月2回往診、訪問歯科行う。基本的には家族様の受信になり、都合が悪い場合は職員対応となる。	家族が同行する受診時には、利用者の日頃の様子や心身の状況を伝え、また、職員同行時には、主治医へ利用者の状況を記録メモで伝達し、判断を仰ぎ、適切な医療が受けられるよう配慮がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な状態変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。看護師とも連携を図り、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人様への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、定期的に職員が見舞うようにしている。家族様とも連携を図り、早期退院につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様や家族様の意向を踏まえ、主治医、職員が連携を図り、安心して納得した最期が迎えられるよう、随時意思を確認し、取り組んでいる。	入居時には、事業所としての重度化した場合の対応について説明し、利用者・家族の理解を得るよう努められている。また、家族の意向についても確認し、主治医の意見も交えて、随時話し合いを行い、情報を共有しながら、支援がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、事故発生時のマニュアルを整備し周知徹底している。また、急変時の応急手当等講習会へも参加。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防職員立会いのもと、避難誘導訓練、通報、避難経路確認、消火器の使い方等の訓練を行っている。	災害発生時の協力体制について、自治会との話し合いがなされており、合同避難訓練の実施の呼びかけも行われている。また、震災の経験から、水や食料の備蓄を増やし、懐中電灯やラジオなどの備品の整備も実施されている。	災害発生時、地域の住民の協力は不可欠であり、日頃からの協力体制を築くため、住民との合同避難訓練の実施や、地域の避難場所としての事業所の役割を呼びかけるなどの取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様の気持ちを大切に考え、さりげないケアを考えたり、自己決定しやすい言葉がけをするように努めている。	利用者が自己決定しやすい言葉がけに配慮し、手を出しすぎないことが、利用者の尊厳の維持につながるとの考えのもと、利用者個々に応じたケアが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるようなことはせず、複数の選択肢を提案して、利用者様が自己決定できるよう促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心掛けている。利用者様が主役であり、業務優先にならないよう、支援していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の生活習慣に合わせ支援をし、また、日頃からも化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	セレクトメニューは、利用者様と相談しながら好んだものを決めるようにしている。また、片付け等もともにいき、楽しく食事できる雰囲気作りもしている。	入居前の食事の習慣を尊重し、食べ方、好き嫌いなどにも充分配慮した食事支援が行われている。食欲が落ちた時などは、菓子パンや和菓子を食べていただくなどの工夫も図られている。また、配、下膳や食器拭きなどに利用者が自然に参加されている。	食事については、家族にも関心の高いことであり、事業所としての食事への取り組み姿勢をアピールするため、家族に献立表を送るなどの話題づくりを行い、さらに信頼を深められる取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と、1日の摂取量を把握している。少しでも多く摂取していただけるよう、本人様の好きなもの、食べやすいものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状態に合わせて行っていただく。できない方に関しては毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎防止にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者様にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排せつできるよう支援している。	排泄パターンをつかみ、トイレ誘導により、自立支援が行われている。入居時にリハビリパンツを使用していた利用者が、定期的な誘導を行うことで、トイレでの排泄ができ、失敗も減り、布下着に変わった事例も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操等の運動と、水分補給により便秘対応に取り組んでいる。体を動かす大切を意識する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員が一方向的に決めるのではなく、利用者様の希望日を確認し入っていただく。日中活動を促し、生活リズムを整えている。	不活発な生活が意欲低下となり、入浴拒否にもつながるため、興味のあるゲームなどを取り入れて、楽しい気分になっていただき、入浴への意欲を高める工夫もなされている。また、家族からも習慣を聴き、希望に沿った入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動に配慮することで、心地よく眠りにつけるよう促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認。効果、効能、用法、用量を把握し、服用をチェック表に記入。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や興味のあることを大切にもらい、生活に張りを持っていただく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣や、楽しみに合わせている。天気の良い日は公園散歩、ドライブの機会を多く持つ。	近くの公園へ散歩に出かけたり、目的地を決めないで、車でドライブするなど、日常的に支援が行われている。家族には、外出の様子をCDに取り込み、定期的に見ていただくことで、日頃の様子を理解いただくよう工夫が図られている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できるだけ本人がほしいものを自分で購入できるように支援している。買い物楽しみも持っていたく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が番号を押し、本人様自ら電話できるように支援し、家族様と連携をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では、不快感を与えないような環境づくりを心がけている。手作りの壁画や習字、塗り絵等で季節感を演出している。	共用空間はゆったりとしたスペースがとられ、ユニット合同のレクリエーションが行われたり、ベンチやソファを配置し、利用者がくつろげる雰囲気作りがなされている。ペランダに出て外気に当たりながら、隣接の大きな公園を眺めることもできるなど、居心地の良い共用空間作りに取り組まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやダイニングテーブル、イスの配置に配慮し、落ち着いてくつろげるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に家族様の持ち込みだが、できるだけ本人様の希望に沿ったレイアウトを行い、使い慣れたもの、洋服を用意。	居室には天窓が設置され、自然の採光を取り入れ、明るく、温かい居室作りがなされている。利用者個々の写真を居室の入口に飾り、自分の部屋との意識を持っていただくなど、居心地良く過ごせる配慮がうかがわれる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	水道、電気等をご自分で使用していただき、風呂、トイレ、居室等の表示をし、環境整備に努めている。		